



12 焼石岳に降り積もる雪の白さをそのまま写したような清らかな姿のヒメカイウ。葉はハート型、花はミズバショウに似ている。胆沢の温泉施設「焼石クアパークひめかゆ」と、「ひめかゆスキー場」の名称の由来は、このヒメカイウである 3 森の中に突如現れる「平七沼」(6月20日撮影)



奥州遺産

——ときを越え
受け継がれるもの——

第95回

若柳のヒメカユウ群落

Ⅱ 胆沢若柳字横岳前山Ⅱ

胆沢の西にそびえる焼石岳の南山腹。通称「平七沼」とその周辺の湿地に「若柳のヒメカユウ群落」はある。

ヒメカイウは、寒冷地性の水草であり、日本では北海道において多く見られる。本州では、昭和7年に焼石岳で岩淵初郎により初めて発見され、青森県の恐山、山形県の白鷹山、長野県の志賀高原など、ごく限られた場所にしか自生していない貴重な植物だ。昭和53年には県の天然記念物に指定されており、指定名称は標準和名の「ヒメカイウ」ではなく「ヒメカユウ」である。

江戸時代、水沢伊達氏の命により、流木役人の三戸平七郎が、平七沢の辺りに居住し、周辺で伐採した木材を、平七沢から胆沢川などの流水を利用して、水沢の日高小路付近の木揚場(木場)まで運搬したという。平七沢源流の、ブナの原生林に囲まれた沼に咲くヒメカイウは、その流木役人の目も楽しませていたかもしれない。

広 告